



HORIBA

Explore the future

第 **77** 期

中 間 報 告 書

2014年1月1日~2014年6月30日

株式会社 堀場製作所



PART 1 2014年度中間期について

半導体と環境・プロセス部門が 順調で2桁の増収に

2014年度第2四半期連結累計期間(1月～6月)におけるHORIBAの業績は、売上高が679億3,400万円(前年同期比13.8%増)、営業利益が56億6,100万円(同42.5%増)、経常利益が51億3,800万円(同37.4%増)、四半期純利益が25億9,200万円(同2.5%増)となりました。

この期間においては、国内外とも経済の緩やかな回復基調が続く中、為替は前年同期と比べ、米ドルで6.6%、ユーロでは10.5%の円安となりました。このような中、HORIBAの業績は、半導体製造装置メーカーの生産拡大や、中国・日本での煙

道排ガス分析装置の需要増加などを背景に、半導体システム機器部門と環境・プロセスシステム機器部門での売上高が増加し、グループ全体では、前年同期比で2桁の増収となりました。利益面でも、半導体システム機器部門と環境・プロセスシステム機器部門の増収により、営業利益、経常利益ともに大幅な増益となりました。しかし、前年同期には子会社建物の売却などに伴う特別利益を計上し、利益が大幅増となっていたことから、四半期純利益は2.5%増にとどまりました。



ごあいさつ

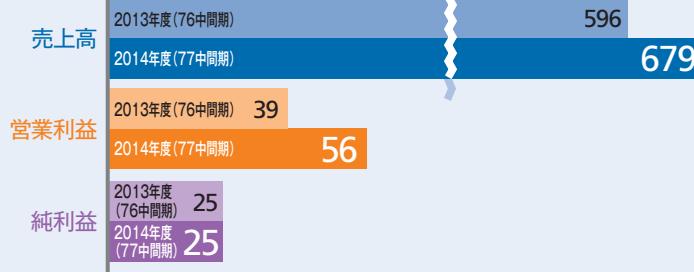
オーナー(株主)の皆様には、
平素より格別のご支援を賜り
誠にありがたく厚く
お礼申しあげます。

ここに事業の概況と今後の諸施策に
つきましてご報告いたします。

代表取締役会長兼社長 堀均厚

中間業績の概要

(単位:億円)



HORIBAでは「中長期的な視点で投資いただきたい」というおもいから、従来の単なる株式の所有者である「株主」という言葉よりも、「会社の所有者」すなわち「オーナー」という表現がふさわしいと考え、表現を統一しています。

中長期経営計画[2011-2015]での投資実績と計画

HORIBAでは、単年度の業績に左右されることなく、長期的な視点で、設備やシステム、研究開発、「人材」*への投資を継続しています。2015年度を目標年度とした中長期経営計画では、計画の初年度から海外での開発拠点、医用システム機器部門の試薬生産拠点の整備などへの投資を積極的に進めてきました。

今後は、日本でのものづくりを強化し、技術開発と生産機能を充実させ、次の中長期経営計画での事業成長をめざします。2014年中には分析・計測機器のコア部品

となる半導体センサーの開発・生産を加速することを目的として「HORIBA最先端技術センター」を京都市内で稼働させます。中長期経営計画の最終年度である2015年には、滋賀県大津市に新しい開発・生産拠点「HORIBA BIWAKO E-HARBOR (ホリバビワコイーハーバー)」が完成予定です。

自動車計測や環境・プロセスシステム機器部門などで展開するガス計測分野に特化した、HORIBA最大のものづくり拠点が誕生します。若手技術者への技術伝

承を行うとともに、開発・設計・生産・サービス機能を集約し、有機的に融合させることにより、新製品投入の迅速化や生産の効率化を図ります。

HORIBAでは、引続き投資効率を改善し、利益の最大化と継続的な企業価値創造に全力を傾注する所存でございますので、オーナー（株主）の皆様におかれましては、倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

*HORIBAでは、従業員を大切な財産と考えて「人材」と表現しています。

グローバルの投資実績と今後の計画

単位:億円

■ 2011~2013年の実績
■ 2014年以降





米州事業の強化を狙って

HORIBAは、世界最大の分析・計測機器市場である米州での体制強化を図っています。これまでに、自動車や医用関連製品の生産体制を増強したほか、米州子会社の本社を移転集約し、事業統括機能を強化しました。

NEWS

米国での自動車計測システム事業のさらなる強化をめざして

エンジン排ガス測定装置を製造するアーナー工場(ミシガン州)の生産能力を5割増強するとともに、自動車のエンジン試験装置などを製造するトロイ工場(同州)を自社保有に切り替え、生産体制を強化しています。

次世代技術として期待される燃料電池

車やハイブリッド車の開発投資はますます拡大しており、自動車メーカーの研究開発工程は複雑化しています。

HORIBAは顧客ニーズに対応した自動車計測システムを提供することで、研究開発の効率化や迅速化に貢献します。

2012年に発売した新型エンジン排ガス

測定装置^{メクスアワン}MEXA-ONEの受注も徐々に増加しており、今回、米国工場に約6億円を投じて、米州向け製品の生産力を増強することで、自動車産業の成長に柔軟に対応できる事業体制を整備します。

NEWS

ブラジル新試薬工場が本格稼働

2014年6月、南米で高まる血液検査ニーズに対応するため、ブラジル・サンパウロ州に血液検査装置用試薬の新工場が稼働し、試薬の生産能力は、従

来比4倍となる年間8,000トンとなりました。

ブラジルでは1996年から血液検査装置の販売および同試薬の生産・販売を

行ってきました。この分野では同国でトップシェアを獲得しており、経済発展や所得増加に伴い、医用市場は高い成長が続いています。その医用システム機器部門で収益の柱となる血液検査装置用試薬を増産することで、迅速かつ安定した供給体制を整え、継続的な事業成長をめざします。



試薬製造タンク



オープニングセレモニーの様子

米州事業の成長のために

米国進出40周年を機に、米州事業を主導するホリバ・インスツルメンツ社本社や近隣営業拠点を、カリフォルニア州の新社屋に移転集約しました。6月13



ホリバ・インスツルメンツ社の新オフィス

日には、開所式と40周年記念式典を開催しました。

米国をはじめとした米州市場は、全世界の分析・計測機器市場の40%を占め



開所式と40周年記念式典の様子

るといわれる世界最大の市場です。この最大市場でさらなる存在感を発揮し、成長を遂げることが、HORIBAの世界での事業拡大において最も大切であると考えています。高いシェアを誇るエンジン排ガス測定装置を筆頭に、注力ビジネスである医用のほか、半導体、環境・プロセス、科学システム機器部門と全ての成長を新しい拠点からめざします。

医用事業：インド初の試薬工場が本格稼働

インドのウッタラーカンド州(首都デリーの北部)で建設を進めてきた同国で初めてとなる血液検査装置用試薬の工場が完成し、2014年2月から本格的な生産を開始しました。

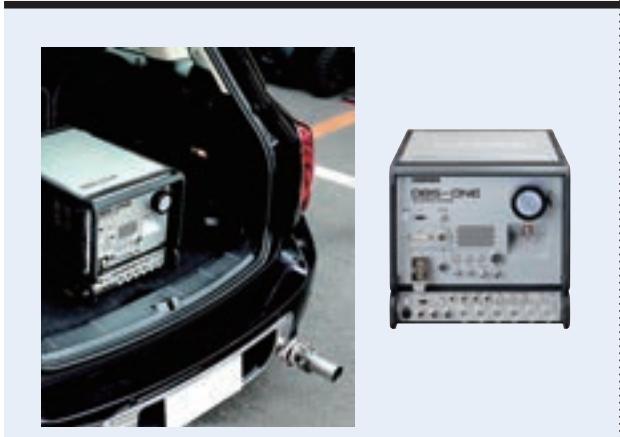
インドでは病院数の増加や医療サービスの向上により、医療機器市場において年率2桁の急成長が続いています。アジアでは中国に次ぐ成長市場であり、HORIBAの医用システム機器部門においても、製品の即納対応と品質管理の強化を行い、インド市場での事業拡大と試薬の販売増による収益性の向上をめざします。HORIBAの医用システム機器部門において重要な収益源である試薬は、インドを含め、フランス・ブラジル・日本・中国の世界5か所で生産を行っています。試薬の一大消費地の近くに工場を設置し、運送・在庫コストの削減を図るとともに、現地でのHORIBAブランド浸透に努め収益力の強化を進めます。



インドで初めてとなる血液検査装置用試薬の工場

TOPICS

自動車計測システム機器部門

車載型排ガス測定装置
「OBS-ONE」

車載型としては世界最小*の排ガス測定装置「OBS-ONE^{オービーエスワン}」を発売しました。実路走行中の自動車の排ガスに含まれる窒素酸化物や一酸化炭素などを測定するもので、消費電力や重量を既存製品比で最大50%削減しました。

排ガス成分濃度や排ガス流量、位置情報、環境条件(温度・湿度・大気圧)のデータ採取と、ガス排出質量の演算が可能です。分析計の小型化・モジュール化や独自の計測技術の採用を通じ、測定精度や耐振性能はそのままに小型化を実現しました。計測データを管理・解析するアプリケーションソフトウェアも提供し、多様な測定ニーズに対応しています。

欧州で9月に導入される新排ガス規制「EURO6b」をはじめ、世界的に高まる排ガス規制強化に対応した製品です。

*乗用車の規制対象となる排ガス4成分の測定装置で世界最小(自社調べ、2014年8月現在)。

環境・プロセスシステム機器部門

煙道排ガス分析装置
「ENDA-7000シリーズ」

火力発電所や化学プラントなどの煙突から排出される排ガス測定向けに、二酸化炭素や窒素酸化物など6成分の同時連続測定が可能な煙道排ガス分析装置「ENDA-7000シリーズ^{エンダ}」を発売しました。米国環境保護局の排ガス規制の認証方針に即した製品で、米国での販売拡大をめざします。

ENDA-7000シリーズは、お客様のメンテナンスの手間を省き、高感度測定を提供します。今後の環境規制の強化が見込まれる窒素酸化物など大気汚染物質の低濃度測定を実現し、操作性を向上させる大画面タッチパネルを採用しました。本製品を取り巻く事業環境は、シェールガス・オイルの増産によって化学・エネルギー産業での設備投資が活発化しており、長期的な成長が見込まれています。

今後は、米国の化学プラントなどへも納入をすすめ、HORIBAブランドのさらなる浸透をめざします。

「グローバルニッチトップ企業100選」に選ばれる

HORIBAは2014年3月に、経済産業省が認定する「グローバルニッチトップ企業100選」に選出されました。「グローバルニッチトップ企業100選」は、国際市場の開拓に取り組んでいる企業のうち、ニッチ分野で独自の地位を築いている企業を表彰する制度です。今回の選出は、HORIBAのエンジン排ガス測定装置「MEXAシリーズ」が、その独自性と市場性において高く評価されたためです。

「MEXAシリーズ」は、世界シェア80%を占め、国家認証機関や自動車関連メーカーで採用されているエンジン排ガス測定装置です。1964年のMEXA1号機の誕生以来、エンジン排ガス測定分野に先進的な装置を提供しつづけることで、世界の自動車産業の発展に貢献してきました。

今後ともHORIBAは、お客様に一層ご満足いただける製品・サービスを提供してまいります。



授賞式と表彰状



堀場厚が「リチャード J ボルト賞」を受賞

米国Chemical Heritage Foundation(化学遺産財団、フィラデルフィア市)が、化学や分子科学に関わる産業で世界的に顕著な功績が認められた指導者に贈っている「リチャード J ボルト賞」をこのほど、代表取締役会長兼社長 堀場厚が受賞しました。

堀場は1992年の社長就任以来、20年以上にわたりHORIBAを率い、自動車排ガス測定分野で約80%のグローバルシェアを獲得しました。製品・サービスを世界に広め、半導体、医用、環境・プロセス、科学などへの多角化を成功に導いたことが評価され、今回の受賞につながりました。

堀場は受賞式典で「これからも様々な技術、様々な文化、様々な人財を融合させ、たくさんの“美しいステンドグラス*”を創り、魅力的なHORIBA製品でこの分析・計測機器

業界をリードし続けます」とHORIBAの継続的な成長に対して新たな決意を語りました。

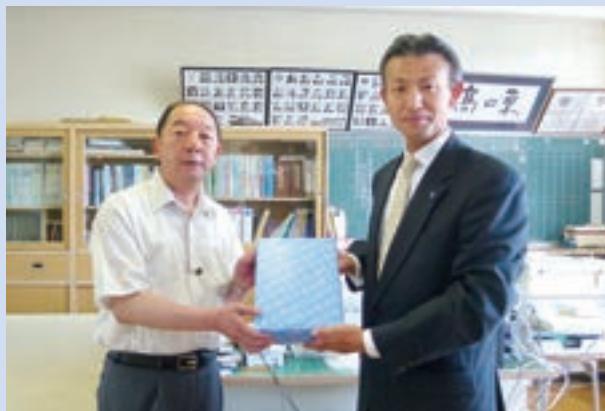
※P8 参照。



記念撮影に臨む堀場(左から2番目)
photo by Sofia Negron

被災地の高田東中学校から嬉しい手紙

HORIBAは、東日本大震災で被災された岩手県陸前高田市立高田東中学校の野球部を支援しています。同校は旧広田中学校など3校の統合により、2013年4月に新設された学校です。旧広田中は津波の被害に遭い、ピッチングマシンをはじめ野球部の設備を全て、海に流されてしまいました。HORIBAは公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）を通じてチャリティバザーの収益金を使って、ピッチングマシンを寄贈しました。その後、統合後の高田東中学校が、2013年の県中学校新人軟式野球大会で優勝するなど好成績を残したことを知らせる嬉しい便りを今年になっていただきました。困難な環境にもかかわらず、好成績を収めていることを伺い、社員一同感動しました。6月にはHORIBAの役員がお手紙のお礼を兼ねて同校を訪問し、軟式ボールを寄贈、復興の現状や課題についてもお話を伺いました。現在も野球部の部員たちは仮設グラウンドで練習をしている状況です。



高田東中学校の校長先生(左)とHORIBAの役員(右)

HORIBAは今後も、震災復興のための支援を継続していきます。



高田東中野球部の選手たち

初の女性役員が誕生

2014年4月、HORIBAのジュニアコーポレートオフィサー（理事）に、管理本部の野崎治子が就任しました。HORIBA初の女性役員です。

野崎は、人事教育部長として多くの先進的な人事制度や教育の仕組みづくりに尽力し、2014年から新しく立ち上げた「ステンドグラスプロジェクト」でも活動を支援しています。

また、対外面では、教育機関や行政の諮問委員会・審議会でも活躍しています。



管理本部理事
野崎治子

経歴

1978年 株式会社ホリバコミュニティ（堀場製作所の福利厚生業務を担う会社）に入社。1980年 堀場製作所へ転籍。2001年 人事教育部長。2014年 ジュニアコーポレートオフィサー（理事）就任。管理本部HORIBA COLLEGE学長兼CSR担当。

従業員一人ひとりが輝きを ステンドグラスプロジェクト



2014年1月にスタートした「ステンドグラスプロジェクト」は、多様な価値観を持つHORIBAグループ従業員一人ひとりが力を最大限発揮し、グローバルに活躍することで、強いHORIBAを実現することを目的としています。

その目的を周知するため「広報、ロールモデル、ワークショップ、社外交流」の4つのワーキンググループで積極的に活動を展開しています。社員参加型のワークショップでは、「性別を越えた企業での輝き方」をテーマに、先輩女性管理職が自らの経験を後輩に語る場を毎月提供しています。また、地域や部門、役職を問わず、従業員に対して、ステンドグラスのように輝く企業の理想像を考える場も提供し、参加人数は延べ800名を超えました。社員一人ひとりが自らの内面の輝きに気づき、考えはじめるきっかけとなっています。

国際規格に基づく事業マネジメントシステムを導入

HORIBAは国内の分析計測機器業界で初めて、医用事業の事業継続マネジメントシステムの国際規格「ISO22301」を取得しました。地震や火災、感染症の拡大など、不測の事態が起こった際にも効果的な被害抑制や早期復旧を図り、安定的な医用関連製品の供給を実現するためのものです。また、道路交通安全に関する国際規格「ISO39001」も取得しました。事業活動における交通事故の撲滅に向けた活動

の一環で、社員の運行管理および協力会社への運送委託に関する荷主責任を強化します。HORIBAはドライブレコーダー*事業も展開しており、当社を取り巻く利害関係者に対しても、道路交通安全リスクを低減する取り組みを進めてまいります。

*運行時に周辺の映像を自動記録する機器。事故発生時の情報把握に役立つほか、自動車の運行管理などにも最適。

売上高

679億3,400万円 

(前年同期比13.8%増)

(単位:億円)



営業利益

56億6,100万円 

(前年同期比42.5%増)

■営業利益(単位:億円) ●営業利益率(単位:%)



純利益

25億9,200万円 

(前年同期比2.5%増)

(単位:億円)

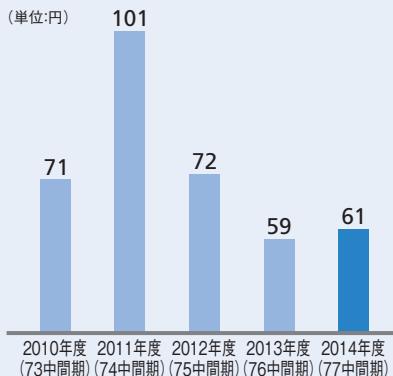


一株当たり純利益

61円 

(前年同期比2.5%増)

(単位:円)



一株当たり純資産

2,664円 

(前年同期比8.0%増)

(単位:円)



■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科 目	2010年度 (73中間期)	2011年度 (74中間期)	2012年度 (75中間期)	2013年度 (76中間期)	2014年度 (77中間期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	81	37	95	62	66
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 16	△ 34	△ 31	△ 40	△ 58
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4	5	△ 37	△ 29	△ 4
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 10	3	0	5	△ 1
現金及び現金同等物の四半期末残高	325	356	384	387	494

厚生年金基金の特例解散に伴う 特別損失の発生に関するお知らせ

当社および国内連結子会社の一部が加入する「京都機械金属厚生年金基金」(総合型)は、2014年2月20日開催の代議員会において特例解散の方針を決議いたしました。

解散に伴う費用の金額については、未だ確定には至っておりませんが、損失額の概算額を算定し、約19億5,400万円を厚生年金基金解散損失引当金(特別損失)として、2014年12月期第1四半期に計上しました。

業績に与える影響としましては、特別損失を計上したものの、保有株式売却による特別利益の計上などから、2014年2月13日に公表した、2014年12月期通期業績見通しについては変更いたしておりません。

なお、同基金からの通知によると、解散申請の時期は早くとも2017年半ばとなっており、解散認可は同じく2018年初めの見込みとなっております。

自動車計測システム機器部門

売上高 **212億6,300万円**



日本での販売が一時的に減少したものの、米国での販売が堅調に推移したことや円安により欧米での売上高が円換算で増加したことなどから、売上高は212億6,300万円と前年同期比4.7%の増収となりました。一方、収益性の高い主力のエンジン排ガス測定装置などの日本での出荷が一時的に減少したことや、MCT（自動車計測機器）事業で戦略的受注案件の出荷が重なったことなどにより、営業利益は8億7,000万円と同28.5%の減益となりました。

■売上高 ●営業利益(単位:億円)



環境・プロセスシステム機器部門

売上高 **82億6,100万円**



日本と中国の発電所や工場向けに煙道排ガス分析装置の販売やサービスが好調に推移しました。

この結果、売上高は82億6,100万円と前年同期比29.8%の増収、営業利益は10億7,900万円と同200.0%の大幅な増益となりました。

■売上高 ●営業利益(単位:億円)



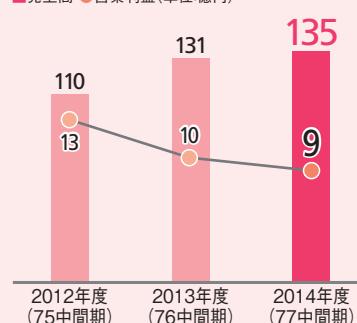
医用システム機器部門

売上高 **135億8,700万円**



円安により欧米での売上高が円換算で増加したことなどから、売上高は135億8,700万円と前年同期比3.7%の増収となりました。一方、日本を含むアジアでの血球計数装置の販売が低調に推移したことなどから、営業利益は9億9,600万円と同3.3%の減益となりました。

■売上高 ●営業利益(単位:億円)



半導体システム機器部門

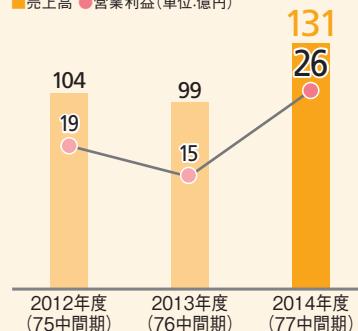
売上高 **131億6,000万円**



半導体メーカーの高水準の設備投資を背景に、半導体製造装置メーカー向けのマスクフローコントローラーの販売が前年同期と比べ大幅に増加しました。加えて、太陽電池やLED（発光ダイオード）の製造装置メーカー向けの販売も緩やかに回復しました。

この結果、売上高は131億6,000万円と前年同期比32.2%の増収、営業利益は26億7,400万円と同71.7%の増益となりました。

■売上高 ●営業利益(単位:億円)



科学システム機器部門

売上高 **116億6,200万円**



2014年第1四半期に実施したフォトン・テクノロジー・インターナショナル社（米国）の事業買収による販売増に加え、円安により欧米での売上高が円換算で増加しました。

この結果、売上高は116億6,200万円と前年同期比17.2%の増収、営業利益は4,100万円（前年同期は1億9,100万円の営業損失）となりました。

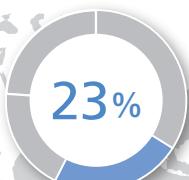
■売上高 ●営業利益(単位:億円)



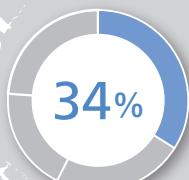
地域別売上高構成比



欧州



アジア



日本



米州

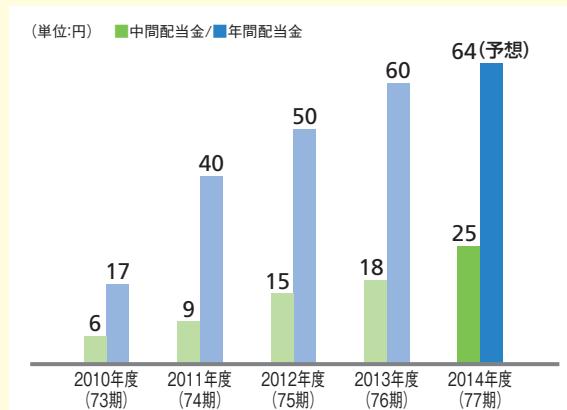
中間配当金について

HORIBAでは、オーナーの皆様への利益配分について、基準配当性向主義を上場以来採用しています。2013年度(76期)からは、連結業績とより直接的に連動した株主還元を実施するため、配当金と自社株買いを含めた株主総還元額を連結純利益の30%を目処とする方針としています。

8月6日現在、連結通期純利益の予想をもとに、2014年度通期の配当金予想を64円としています。このうち、2014年度中間配当金としましては、一株当たり25円とさせていただきます。

一株当たり配当金

25円 (前年同期比7円増) 



※2012年度(75期)の年間配当金は、普通配当金40円に創立60周年記念配当金として10円を加えています。

ウェブサイトのご紹介

統合報告書 「HORIBA Report」を創刊

財務諸表に載らない企業文化を感じていただくことで、HORIBAのさらなる価値をご理解いただきたいという思いから、HORIBAは、今年度、アニュアルレポートとGaiareport (CSR報告書) の内容を統合した報告書「HORIBA Report 2013」を創刊しました。また、ウェブサイト「ステークホルダーのみなさまへ」でも、HORIBAの企業活動における様々な取り組みを紹介しています。ぜひ一度、ご覧ください。



HORIBA Report 2013



ステークホルダーのみなさまへ

<http://www.horiba.com/jp/horibareport/>

HORIBA Report



株式の状況 (2014年6月30日現在)

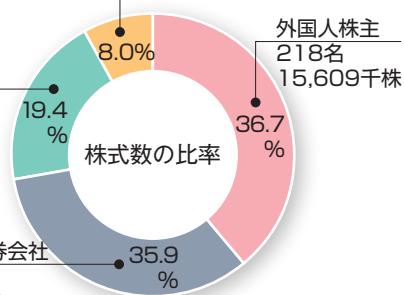
発行可能株式総数 100,000,000株
 発行済株式総数 42,532,752株
 株主数 6,328名

● 株主構成

その他国内法人
 162名
 3,390千株

個人・その他
 5,848名
 8,250千株

金融機関・証券会社
 100名
 15,281千株



● 大株主一覧 (上位10位)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	2,796	6.6
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	1,947	4.6
TAIYO FUND, L.P.	1,752	4.1
ピクテアンドシーヨーロッパエスエー	1,301	3.1
全国共済農業協同組合連合会	1,287	3.0
堀場 雅夫	1,150	2.7
(株) 京都銀行	828	1.9
堀場 厚	810	1.9
堀場洛楽会投資部会	776	1.8
818517ノムラルクスマルチカレンシジエイピストクリド	716	1.7

株価チャート (週末値)



オーナーメモ

環境フォト・コンテスト2014

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月下旬
基準日	定時株主総会 期末配当 毎年12月31日 中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 Tel: 0120-782-031 (フリーダイヤル)
(電話照会先)	取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で 行っております。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京(第1部)
証券コード	6856
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(http://www.horiba.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が 生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。



[表紙写真]

堀場製作所賞 「地球のささやき」

佳作 「夏祭り」 伊東 繁雄

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に
口座がないため特別口座が開設された方は、特別口座の口
座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出くだ
さい。

●未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出
ください。

●「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税
特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。
確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくこ
とができます。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの
オーナーの皆様につきましても、配当支払いの都度「配当金
計算書」を同封させていただいております。

*確定申告をされるオーナーの皆様は、大切に保管ください。

少額投資非課税制度口座(NISA口座)における配当金のお受取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座で所有される場合、配当金につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関(証券会社等)を通じて配当金を受取る方式である「株式数比例配分方式」をお選びいただく必要があります。NISA口座に関する詳細につきましては、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

株式会社 堀場製作所

京都市南区吉祥院宮の東町2番地

〒601-8510 Tel:(075)313-8121 <http://www.horiba.co.jp/>

この印刷物は、環境に配慮し植物油インキを使用しています。

